

Labo News

新春を迎えて



愛知県知事 大村 秀章

らぼ ニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会

住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
花車ビル南館 〒450-0002

電話 052-581-1013

FAX 052-586-5680

ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>

Eメール aamt@aichi-amt.or.jp

取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
普通口座731-677

発行人 中根生弥

編集人 武山 純也

No.442 目次

- ◆年頭挨拶 大村秀章……………(1)
- ◆年頭挨拶 松本一年……………(2)
- ◆年頭挨拶 中根生弥……………(2)
- ◆遺伝子染色体研究班
基礎講座に参加して……………(3)
- ◆全国「検査と健康展」……………(4)
- ◆実務委員として愛臨技サーベイ結果検討会&
日臨技サーベイ結果相談会に参加して…(5)
- ◆地区だより……………(7)
- ◆「平成30年度認知症対応力向上講習会B」
開催案内……………(8)
- ◆管理運営研修会……………(9)
- ◆尾張西地区研修会……………(9)
- ◆西三河地区研修会……………(9)
- ◆講演会・研究会……………(9)
- ◆AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信(第57回)……………(12)

あけましておめでとうございます。

昨年は、2022年度のオープンを目指すジブリパークの基本デザインを発表し、夢の実現に大きく前進した年でした。また、2026年アジア競技大会の開催都市契約を締結し、開催に向けた準備が加速した年でもありました。

そして、2027年度のリニア開業に向け、大交流圏の拠点として、道路ネットワークの充実など、愛知のポテンシャルを一層高めてきた1年でした。

時代は今、グローバル化とデジタル化の大きなうねりの中にあります。そうした変革期においても、愛知は、日本の成長エンジンとして、我が国の発展をリードし続けていく存在でなければなりません。

今年も、次世代自動車や航空宇宙、ロボットを始め、ICTやAIなどのデジタル分野まで、幅広く産業集積を進めるとともに、スタートアップ支援に戦略的に取り組むことで、世界一の産業の革新・創造拠点を目指してまいります。

また、9月に開業する愛知県国際展示場を核とした国際観光都市の実現に取り組むとともに、幅広い分野でグローバル化を進め、愛知のプレゼンスをより一層高めてまいります。

そして、社会インフラの整備、農林水産業の振興、女性の活躍、医療・福祉、教育・人づくり、環境、防災、東三河地域の振興にも力を注いでまいります。

今年は、全国植樹祭やあいちトリエンナーレ、ラグビーワールドカップ、技能五輪全国大会・全国アビリンピック、G20外務大臣会合を開催します。しっかりと準備を進め、大いに盛り上げてまいります。

引き続き、「日本一元気な愛知」の実現に全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成31年元旦

新年を迎えて



愛知県健康福祉部
保健医療局長
松本 一年

あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

愛知県臨床検査技師会の皆様方には、日頃から本県の健康福祉行政の推進につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会は、昭和62年4月に社団法人として活動を始められ、これまで30年以上の長きにわたり、臨床検査に携わる県内唯一の技術者集団として、知識や技術の研鑽に努め、検査技能を通じて県民の健康の保持及び増進に多大な貢献をされてこられました。

たことに心から敬意を表します。

さて、検体検査は、疾病的確な診断や、治療効果の評価のため、日々の診療の中で数多く実施されているものであり、先進的なものを含め、その品質・精度を確保することが非常に重要であります。

このような状況を踏まえ、平成30年12月1日に「医療法等の一部を改正する法律」が施行され、医療機関自ら実施する検体検査並びに衛生検査所やブランチラボに業務委託される検体検査の精度の確保に関する基準を設け、適切に管理を行っていくことについて、法律上明確に位置づけられました。

臨床検査の専門家である皆様方におかれましては、この法改正に適切に対応いただきますとともに、正確かつ迅速な検査を行っていただくことにより疾病の診断や治療における科学的根拠を提供し、安全で安心な医療を支える一員として益々御活躍されることを御期待申し上げます。

本県におきましても、引き続き、県民の健康の保持・増進に全力で取り組んでまいりますので、皆様方の更なる御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、皆様方の御健康と貴会の御発展を心からお祈りいたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

平成31年 元旦

年頭のごあいさつ



公益社団法人
愛知県臨床検査技師会
会長 中根 生弥

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より愛知県臨床検査技師会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて昨年におきましては役員改選の年であり、6月17日に開催された愛臨技定時総会において会長にご承認いただき、新しい執行部での船出となりました。新任役員一丸となって公益法人として会務を遂行させて頂いております。また当会として2回目の監査法人による公益法人監査を受け、多少の監査指摘事項はございましたが、手順の変更や関連書類の整理方法の変更にて対応可能であり、当会が公益法人として適正な事業遂行が実施されていると安堵しております。

また7月1日には尾張北地区が中心となり、第18回愛知県医学検査学会が開催され、多くの会員の皆様の参加により成功裏に終了しました。10月27日、28日には「多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会」を3年計画の初年度として開催し、看護師・薬剤師・理学療法士・臨床工学技士の皆さんより講義や実習を受講したことで、他部門を少しでも理解し、チーム医

療の一員として活躍できることを願っています。11月18日には、「全国検査と健康展」を熱田イオンで開催し、検査体験コーナー・子供向け企画と、大人から子供まで臨床検査を体験していただき、健康づくりの啓発や臨床検査技師の認知度向上に貢献できました。このような事業を愛臨技が担当し、この機会に多くの若手技師が参画、体験できたことは今後の技師会活動に大きな収穫であったと考えます。これも偏に愛知県、愛知県医師会、関係諸団体のご指導とご支援によるものと感謝申し上げます。

さて、「医療法等の一部を改正する法律」が昨年12月1日に施行されたことで、これまで以上に臨床検査の品質および精度管理に係る基準が明確となり、それらの根拠規定が医療法に規定されたことで、関連文書の意味合いが一段と重要になると同時に、医療制度の中で臨床検査の重要性が確立されました。このことは検体検査の総合精度保証を臨床検査技師が実践することの証であり、医療分野への貢献の一助になると確信しております。

これからの臨床検査技師の活躍の場は大きく変革し、検査室のみならず多職種連携の中で技師力を発揮し、患者中心の医療において環境変化に対応できる臨床検査技師となれるよう、技師会としても支援する必要があります。

新しい年を迎え、平成から新元号に変わる歴史的幕開けの年となります。会員一人ひとりが健康であること、そして県民の健康増進に臨床検査技師会として深く関わることを我々の使命とし、学術および職能団体としての力量を充分に発揮してまいります。

会員の皆様には、これまで同様に当会の更なる発展のため、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後に、2019年が会員の皆様にとって良き年でありますように心から祈り申し上げます。

2019年 元旦

遺伝子染色体研究班 基礎講座に参加して

岐阜大学医学部附属病院検査部 佐々木健太

平成30年11月4日に開催された遺伝子染色体研究班 基礎講座に参加させていただきました。テーマは「やってみよう！PCRとFISH」ということで講義だけでなく実習も体験できる内容となっていました。

講義ではPCR、FISH法の原理やFISH法で検出できる遺伝子異常の解説などの基礎的内容から始まり、遺伝子検出における品質管理や実際の業務における注意点などの応用的な内容まで講義して頂きました。とてもわかりやすい講義内容であったため、初心者の私にとっては非常に勉強になり、とても有意義な講義でした。

午後の実習ではグループに分かれて、簡単なPCRの体験と症例を用いたFISHの画像の解説をしていただきました。PCRの実習では電気泳動の体験を行い、出現したバンドを確認するところまでを経験することが出来ました。電気泳動時の注意点も説明して頂き、とても勉強になりました。講義で学んだことを実際に体験できたことで、より理解を深めることが出来たと思います。FISHの実習では固形腫瘍や造血器腫瘍、染色体などの症例画像を提示して頂き、解説をしていただきました。普段の業務ではFISHの画像を見る機会があまりないため、さまざまな症例の染色体・遺伝子異常の画像を見ることが出来たのはとても貴重な体験でした。

今回の研修会は基礎的な内容が多く、日常業務で遺伝子検査に携わっていない初心者の人に対しても非常にわかりやすい内容であったと思います。これから遺伝子検査に携わることがある場合には今回学んだことを生かしていきたいと思います。今後も、このような基礎知識を学べる研修会が開催されるときには、是非参加させていただきたいと思います。最後にこの基礎講座を開催して頂いたスタッフの方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



平成30年度 全国「検査と健康展」報告

中部大学大学院 生命健康科学研究科 生命医科学専攻 三田 康暁

今回のボランティアに初めて参加して、臨床検査技師という職業についてより知ってもらえたと思いました。今回いらっしゃった人の話では、臨床検査技師という職業を知らないといった声が多く、医者・看護師などと比べるとまだまだ臨床検査技師の知名度が低いのであると感じました。

今回、入口での呼び込みを実施しましたが、小さい子向けの白衣が親・子供の双方にとっても好評であると感じました。子供が実際に手を動かすようなイベントがあれば（何か作製してお土産にするなど）より楽しめるのではないかと思います。

血液のブースも見ておりましたが、はたらく細胞のキャラを使った説明がとても分かりやすいと感じました。キャラクターを使うことでより親近感が湧くと感じ、とても良いと感じました。

検査と健康展を毎年実施しているということを知ったため、是非来年も参加したいと思います。

検査と健康展に参加して

愛知医科大学病院 坂野 容菜

平成30年11月18日(日)に開催された「検査と健康展」にボランティアとして参加させていただきました。このイベントでは腎臓の働きをテーマとした検査体験コーナーと血管年齢および骨密度測定を行う無料検査コーナーを設け、幅広い年代に臨床検査を身近に感じていただけるよう活動を行いました。

私の担当した検査体験コーナーでは、尿生成における腎臓の役割について興味深く聞き質問してくださる方が多くいらしかったことや、まだ少し大きい白衣を嬉しそうに着てクイズを一生懸命考える子供たちの姿がとても印象的でした。

また、私は化学免疫部門に所属していますが、このイベントではさまざまな部門の技師が「臨床検査技師を知ってもらおう」という1つの目的のもと活動したので、普段関わる機会の少ない他部門所属の方とも自然と協力しお話しすることができ、技師の交流としてもとても貴重な体験ができました。

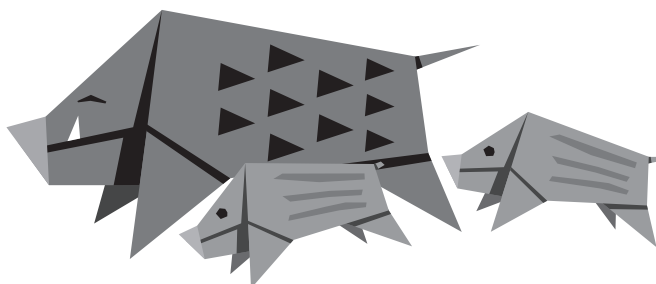
私は今年度入職したため今回初めての参加でしたが、まだまだ認知度の低い臨床検査技師をもっと知ってもらえるよう、また、検査の大切さを知っていただけるようこれからもこのようなイベントに積極的に参加していきたいです。



実務委員として愛臨技サーベイ結果検討会&日臨技サーベイ結果相談会に参加して

小牧市民病院 西尾美津留

平成30年11月18日(日) 10時30分より、安保ホールにて愛臨技サーベイ結果検討会ならびに日臨技サーベイ結果相談会が開催され、私は微生物部門の実務委員として参加させて頂きました。愛臨技サーベイ結果検討会には全体で21施設、微生物部門には5施設からご参加頂き、私を含め4名の実務委員で対応させて頂きました。1時間という短い時間でしたが、サーベイ問題の解説のみならず、日常検査において困っている点を共有し、アドバイスをを行いました。他分野を見渡しても、大変熱心な参加者ばかりで、至る所で熱い議論が交わされていました。13時から、日臨技サーベイ結果相談会が開催されました。この相談会は、愛臨技として初の試みでありましたが、全体で24施設と、愛臨技サーベイ結果検討会を超えるご参加を頂き、需要の高さが伺えました。微生物部門には3施設からご参加頂き、フォトサーベイを中心とした解説を行いました。近年、微生物検査は、薬剤耐性菌（AMR）アクションプランや抗菌薬適正使用支援（AS）加算の算定などで、話題に事欠かない分野です。しかしその一方で、微生物検査を1名ないし2名の技師で行っているような施設が多く、他の検査に比べて精度保証、手技統一といった点で、遅れをとっていることは否めません。薬剤感受性検査1つをとっても、自動機器を使用できず、用手法で測定している施設もまだまだ多くあります。そういった施設の現状を細かに把握し、個々の施設に即したアドバイスを行う場として、この結果検討会は大変意義深い場であると感じました。継続して結果検討会を開催できている技師会は大変少ないと聞いています。愛臨技が誇る精度管理事業がこれからも益々発展していくよう、今後も微力ながらお手伝いできればと思います。



2018年12月7日現在 正会員数 3,346名

日臨技サーベイ結果相談会に参加して

JA愛知厚生連江南厚生病院 船橋 里奈

平成30年11月18日(日)に、私は日臨技の主催するサーベイ結果相談会に参加しました。愛臨技が主催するサーベイ結果相談会は以前からあったのですが、日臨技が行うのは愛知県では初めてだと伺いました。結果検討会に参加すること自体私にとって初めてのことで、緊張しながら会場に向かいました。

会場は分野ごとにテーブルで分けられており、主催者と参加者が非常に近い距離で意見を交わすことが出来る配置になっていました。また、テーブルにはクッキーなどが置いてあり、和やかな雰囲気です話をする事が出来ました。

私は血液担当のため事前申し込みは血液、特に骨髄の分野にしました。検討会が始まると、最初にフォトサーベイ内の症例(今回はRUNX1-RUNX1T1を伴う急性骨髄性白血病)について血液の参加者全体にむけて説明がありました。特徴的な形態や他の白血病との鑑別方法、さらにサーベイではどうしても形態が主になりがちですが、遺伝子についても詳しく説明していただけて疾患に対しての理解がさらに深まりました。

その後は分析や末梢血、骨髄と事前に希望した分野に分かれて個別に質問をしました。細胞の見分け方や類似した細胞との鑑別のポイントはもちろんのこと、そこからさらに発展してその細胞が出現する疾患についての説明など、非常に広く、そして深く説明していただきました。また、他にも正答率が低く意見が分かれた設問や、他病院が誤った設問の解説も聞くことで、自施設が正解していた設問でもそれぞれの細胞での気を付けるべき点や間違えやすい細胞との鑑別法などを知ることが出来ました。さらに途中から他の部門で申し込んだ方も参加して、より熱いディスカッションを重ねることが出来ました。最初は申し込んだ部門の内容しか聞けないと思っていたので、時間に余裕があれば他部門の解説も聞くことが出来る、ということは1人が複数部署にまたがって業務を行う病院にとっては非常にありがたいことだと思いました。

今回は初の試みであり、また骨髄は希望者が少なかったこともあり、ほぼマンツーマンで質問に答えてもらうという非常に贅沢な時間を過ごせました。普段の研究班も大変勉強になりますが、今回の精度管理結果検討会は1つのテーブルを囲んで議論を行うという形であり、少しでも気になることが有ればすぐに質問が出来るため、より自分の知りたいことが知れて非常に勉強になりました。サーベイは正しい結果を出すために必要不可欠なことであり、このような会でディスカッションすることで知識を深めることができ、とても有意義だと思います。今後もこのような会があれば、積極的に参加していきたいです。



当院は、名古屋から南へ車で一時間ほどのところに位置する知多郡美浜町にあります。美浜町の名所といえば、南知多ビーチランド、恋之水神社、野間大坊、野間埼灯台（通称、野間灯台）がありますが、その中でも野間大坊は当院から歩いて10分ほどのところにあります。野間大坊には源氏にまつわる歴史や伝説が多数あることから、近年ではパワースポットと言われ、歴史ファンに人気のある名所となっています。野間大坊の境内の西にある「お砂踏み」には、四国八十八箇所のお砂が埋まっており、各寺院の名前を見ながら通ると、四国に行くことが出来ない人でも四国八十八箇所霊場巡りと同じ徳を積むことが出来るそうです！！興味がある方は是非一度お越しください。そんな美浜町にある渡辺病院は、初代院長渡邊元嗣が、昭和37年に渡辺医院として開業しました。当時最新鋭のレントゲン機器を導入し、確かな画像診断に努めるなど、地域の要望に応えてまいりました。昭和51年に渡辺病院を設立、昭和59年には現在の111床に増床し、現在の内科総合病院

の基礎が完成しました。その後、社会福祉法人瑞祥を設立し、翌年特別養護老人ホーム ビラ・オレンジを設立。平成6年には老人保健施設サンバーデン、平成17年に渡辺病院健診センターを開設するなど、医療・福祉・保健を結合させ、今日に至っています。検査科では、患者様が血液検査の結果を診察時に聞くことが出来るように検査室の環境を整えています。生理検査においてもエコー、心電図、肺機能、脳波と幅広く行っています。また、放射線科とも連携し、CTやMRIとの画像検査と関連付けて検査を進められることが出来るのも魅力です。医師との症例検討会も定期的に行い、多角的な視野で学ぶことが出来るということは、とても有り難い環境にいるのだと実感しています。現在は在宅医療にも力を入れており、当院の理念でもある「患者様のための」「思いやりのある」安全で質の高い医療を提供する病院を目指し、職員一丸となって日々精進していきたいと思っています。



「平成 30 年度認知症対応力向上講習会 B」 開 催 案 内

専門教科：20点

日 時：平成31年2月17日(日) 8時15分～19時00分 (受付8時00分より)

場 所：独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター 地下2階 第7会議室

対 象：日本臨床衛生検査技師会および愛知県臨床検査技師会の会員 (必須)

検体採取等に関する厚生労働省指定講習会修了者 (必須)

検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会修了者 (望ましい)

認定認知症領域検査技師制度の講習会などの受講歴がある (望ましい)

申 込：平成31年2月10日までに日臨技HPから事前登録して下さい。

人 数：約15名(定員になり次第、申し込みしめ切とさせていただきます)

受 講 料：2,000円

内 容

コマ時間	プログラム	担当講師
8:00	受付	
8:15	開会式	
8:30	神経心理学的検査総論 ～認知症疾患医療センター、物忘れ外来、認知症スクリーニングで主に活用される検査～	国立長寿医療研究センターもの忘れセンター長 櫻井孝(ビデオ)
9:40	MMSE・HDS-R・物忘れ相談プログラム検査 総論	鳥取大学医学部教授・日本認知症予防学会理事長 浦上克哉(ビデオ)
10:50	MMSE・HDS-R・物忘れ相談プログラム検査 実習	中部大学生命健康科学部教授 野田明子
12:20	昼休憩※昼食は各自でご用意下さい	
13:20	ADAS検査総論	鳥取大学医学部附属病院神経内科 鳥取県基幹型認知症疾患医療センター臨床心理士 浜田実央
14:20	ADAS検査実習	中部大学生命健康科学部教授 野田明子
15:10	TDAS検査総論	鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座助教 河月稔(ビデオ)
16:10	TDAS検査実習	中部大学生命健康科学部教授 野田明子
16:40	その他の簡易スクリーニング検査総論 ～道路交通法改正もふまえて～ その他の簡易スクリーニング検査の実習	NPO高齢者安全運転支援研究会 中村拓司(ビデオ)
18:50	修了書授与	

主 催：一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会、公益社団法人 愛知県臨床検査技師会

共 催：日本認知症予防学会

後 援：厚生労働省、一般社団法人 日本病院会、

後援予定：公益社団法人 愛知県医師会、一般社団法人 愛知県病院協会、

国立病院臨床検査技師協会 東海北陸支部

平成30年度 管理運営研修会

日時：平成31年2月17日(日) 14:00～16:00
場所：藤田医科大学 3号館
(旧生涯教育研修センター2号館)104教室
生涯教育：基礎20点

今現在、少子化に向けて良い人材育成・確保が重要となっています。日本臨床衛生検査技師会は、厚生労働省より臨床検査技師教育の見直し答申を受け“臨床検査技師教育への提言と見直し”を提出しました。これらを受け将来に向けて養成校と病院との連携強化、相互の教育内容の整合性および充実が重要と思われます。

今回の研修会では、藤田医科大学の石川先生・雪竹先生から“現状の大学教育”について、豊田厚生病院の田中先生からは“臨地実習の取り組み”について講演いただき、よりよい臨床検査技師教育へ向けての意見交換の場としたいと思います。
多数の方の参加を期待しています。

- 講演 1：「藤田医科大学における臨床検査技師教育
－今、求められる臨床検査技師教育 客観的臨床能力試験（OSCE）を含めて－」
講師：石川 浩章／雪竹 潤
(藤田医科大学医療科学部臨床検査学科)
- 講演 2：「豊田厚生病院における臨地実習への取り組み
－臨地実習を通してみえた、実習生が思い描く臨床検査技師としての将来像－」
講師：田中 浩一（豊田厚生病院）

共催：愛知県臨床検査技師長協議会

尾張西地区研修会

基礎教科：20点
日時：平成31年2月23日(土) 15:00～17:00
場所：稲沢市民病院2F講堂
テーマ：2018年法改正による医療機関における対応
講師：1. 株式会社エスアールエル 松本登貴夫
2. 稲沢市民病院 堀尾 健太

司会：稲沢市民病院 木下健次郎
内容：2018年医療法の一部改正による医療機関における対応と、当院における現状。

西三河地区研修会

基礎教科：20点
日時：平成31年2月23日(土) 15:00～17:00
場所：八千代病院 新棟5階会議室
テーマ：医療事故について考えてみよう
講師：1. 医療事故の実例から学ぶ
公立西知多総合病院
臨床検査科 吉本 尚子
2. 管理者からみたインシデント対策
西尾市民病院
医療安全管理室室長 高須 照美

司会：西尾市民病院 中村 広基
内容：私たちが業とする医療では、いっけん些細なミスでも致命的な事故に繋がる場合があります。そのため、それぞれの施設で精度管理や安全管理に多くの費用と労力をつぎ込んで対策を行っていると思います。
今年度は医療事故をテーマにあげました。講師は、実例を話していただく現場の臨床検査技師と、全体的な見地を話していただく現医療安全管理者のお二方を講師に招き、それぞれの立場から御講演を頂戴して、皆さんと医療事故について考えたいと思います。多数の参加をお待ちしています。

愛臨技精度管理事業

講演会

病理細胞検査研究班

基礎教科：20点
日時：平成31年2月16日(土) 15:00～17:00
場所：リップルスクエア
名古屋市東区桜1-1-10
アーバンネット名古屋ビル20F
久屋大通（地下鉄名城線）出口3B
テーマ：平成30年度愛臨技精度管理事業、泌尿器細胞診について

講演 1：精度管理報告 細胞部門
公立陶生病院 柚木 浩良

講演 2：精度管理報告 病理部門
藤田医科大学病院 川島 佳晃

講演 3：泌尿器細胞診報告様式2015の概要と細胞所見
公立西知多総合病院 今井 律子

司 会：公立西知多総合病院 吉本 尚子

内 容：平成30年度愛臨技精度管理報告を行います。講演では泌尿器細胞診についてのご講演をいただきます。泌尿器領域は頻度の高い細胞診の一つではありますが、施設、診断者により異なる対応がなされてきました。尿細胞診の報告様式の標準化と診断基準の統一化を目的とした本報告様式について解説していただきます。皆様のご参加をお待ちしています。

愛臨技精度管理事業

研 究 会

生物化学分析検査研究班

基礎教科：20点

日 時：平成31年2月2日(土) 15：00～17：00

場 所：株式会社スズケン名古屋支店 2F会議室
名古屋市東区東片端町1（久屋大通駅）

テ ー マ：平成30年度愛臨技精度管理報告
もっと！ビリルビン

講 師：1. 臨床化学部門 精度管理報告
愛知医科大学病院 森部 龍一
JA愛知厚生連豊田厚生病院 高井 美帆

2. 免疫血清部門 精度管理報告
名古屋掖済会病院 岡本 明紘

3. もっと！ビリルビン
株式会社LSIメディエンス
診断薬事業本部学術部1グループ 本田 亨

司 会：名古屋第一赤十字病院 尾崎 靖将
JA愛知厚生連稲沢厚生病院 中島 裕人

内 容：平成30年度愛知県精度管理調査の解析結果について詳細報告します。また講演では、ビリルビンについて、今更聞けない色々な事（直接、間接、抱合、非抱合、 δ -ビリルビン?...）を解り易く詳細に

解説します。目指せ、ビリルビンマスター！

愛臨技精度管理事業

研 究 会

一般検査研究班

基礎教科：20点

日 時：平成31年2月9日(土) 15：00～17：00

場 所：名城病院 地下大会議室

テ ー マ：「一般検査における外部精度管理と内部精度管理」

1) Q&A
藤田医科大学病院ばんだね病院
臨床検査部 進藤龍太郎

2) 平成30年度愛知県臨床検査技師会
一般検査部門精度管理報告
藤田医科大学病院
臨床検査部 長瀧 和子
公立西知多総合病院
臨床検査科 服部 聡
JA愛知厚生連 稲沢厚生病院
臨床検査技術科 蜂須賀大輔
特定医療法人衆済会 増子記念病院
臨床検査課 平田 弘美

3) ISO15189取得施設での精度管理
名古屋大学医学部付属病院
医療技術部 臨床検査部門

岩崎 卓識

司 会：特定医療法人衆済会 増子記念病院
臨床検査課 平田 弘美
JA愛知厚生連 豊田厚生病院
臨床検査技術科 鈴木 康太

内 容：「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う厚生労働省令の整備に関する省令の施行について（改正省令）」が平成30年12月1日に施行され、各施設において標準作業書や作業日誌・台帳が必須になりました。その活用方法について、ISO15189取得施設の現状を講演して頂きます。各施設にとって利用しやすい作業書や日誌等の作成に役立てて頂きたいと思います。皆様の参加をお待ちしております。

愛臨技精度管理事業

研 究 会

輸血検査研究班

基礎教科：20点

日 時：平成31年2月9日(土) 15:30～17:00

場 所：アーバンネット名古屋ビル20F

リップルスクエア

テ ー マ：「輸血業務の精度管理
～法改正後の在り方～」

講 演 1：「平成30年度精度管理調査報告」

半田市立半田病院 森本奈津代

講 演 2：「輸血検査における精度管理」

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
小黒 博之

司 会：JA愛知厚生連 豊田厚生病院

木村 有里

内 容：1. 平成30年度愛臨技精度管理調査結果
報告および参加施設における輸血検査
の現状や検査上注意を要するポイン
ト、設問等の解説をします。

2. 医療法等の一部を改正する法律の一
部規定が平成30年12月1日から施行
され、各施設において内部精度管理
の実施、外部精度管理調査の受検、
適切な研修の実施等により輸血検査
の精度の確保に努めなければなりま
せん。今回、輸血検査における精度
管理について解説していただきま
す。

多くの方のご参加をお待ちしており
ます。

愛臨技精度管理事業

研 究 会

微生物検査研究班

基礎教科：20点

日 時：平成31年2月16日(土) 15:30～18:00

場 所：名古屋大学 医学部基礎研究棟

第1講義室

テ ー マ：微生物検査における精度管理を考える

講 演 1：平成30年度愛臨技精度管理報告

JA愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠

講 演 2：検体検査の精度保証に関する法律改正

岡崎市保健所 中根 邦彦

講 演 3：米国の精度管理について

～米国研修から見たもの～

名古屋第二赤十字病院 原 祐樹

講 演 4：法改正を受けた班員施設の現状

JA愛知厚生連安城更生病院 近藤 好

碧南市民病院 太田 晃成

名鉄病院 池戸 政博

司 会：刈谷豊田総合病院 蔵前 仁

内 容：講演1では、平成30年度愛臨技精度管理
調査結果を詳細に報告・解説します。講
演2では、12月1日に施行された改正法
について行政の立場から解説して頂きます。
また、愛知県下の複数施設の精度管
理状況や、米国での精度管理のあり方な
ど、幅広い内容の講義を準備しています。
多数のご参加をお待ちしております。

愛臨技精度管理事業

研 究 会

血液検査研究班

基礎教科：20点

日 時：平成31年2月16日(土) 15:00～17:00

場 所：スズケン名古屋支店

名古屋市東区東片端町1

テ ー マ：講演1. 平成30年度精度管理調査結果報告

講演2. Aicclsから血液特殊染色について

講 師：1. 『平成30年度血液部門精度管理調査
報告』

【血球計数検査】

国立病院機構 名古屋医療センター
棚橋真規夫

【形態検査・凝固検査】

JA愛知厚生連豊田厚生病院

蒲澤 康晃

2. 『特殊染色(POD,EST染色)について』

名古屋大学医学部附属病院

亀山なつみ

司 会：JA愛知厚生連豊田厚生病院 藤上 卓馬

内 容：講演1では血液部門における平成30年度
精度管理調査結果の詳細報告を担当者か
ら行います。講演2ではAicclsから発行
いたしました特殊染色(POD,EST染色)
のリーフレットについて紹介します。多
数のご参加をお待ちしています。

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信
(第57回)

愛知県臨床検査標準化協議会（Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization：AiCCLS）は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発行された刊行物のうち、「細胞診アトラス」についてご紹介いたします。

これから細胞診を学ぶ初心者から経験を積んだベテランまで幅広く活用できるように細胞画像を多数取り入れて編集しました。日常業務のなかで多くの方に活用して頂けると幸いです。今回は、呼吸器シリーズ（良性・炎症）として“クリプトコッカス症”と“糞線虫”を添付しました。今後、順次あらたなアトラスを作成していきますのでご期待ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

（AiCCLS：愛知県臨床検査標準化協議会）

クリプトコッカス症

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
細胞診アトラス“呼吸器シリーズ”（10）

患者年齢 40歳代 性別 男性 検体種類 喀痰
臨床所見 アジソン病にて加療中

【判定】 陰性

【細胞所見】

好中球を背景に、大小不同の球状酵母様菌体を認める（写真1）。菌体は、中心に大型の核、核周囲に狭い透明な細胞質、薄い細胞膜、オレンジ色の厚い細胞壁、最外層の英膜をみる（写真2）。クロム酸シッフ反応やグロコット染色で細胞壁が陽性となる（写真3、4）。多極出芽をみる大小不同の酵母様菌体を多数認める。クリプトコッカスの特徴である涙滴状（tear-drop）の出芽が確認できる（写真3矢印）。

【細胞診断のポイント】

クリプトコッカス症は、代表的な酵母型真菌である *Cryptococcus neoformans* を原因菌とする感染症である¹⁾。一般に、健康人に発症する原発性クリプトコッカス症では肺野に限局性の肉芽腫性病変を形成する。この場合、真菌は多核細胞に貪食されて英膜形成を欠き、サイズも小型となる²⁾。免疫力の低下した患者に発症する続発性クリプトコッカス症では浸潤性の病変を形成する³⁾。

英膜とはクリプトコッカスの細胞壁の外側に形成されるゼラチン様の構造物のことをいい、ヘテロ多糖類のグルコマンナンが主成分であり、微細な線維を形成している。パバニコロウ（Pap.）染色では難染性であるため、PAS 反応やアルシアンブルー染色、ムチカルミン染色などで証明する。

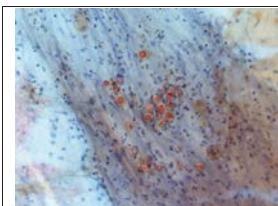


写真1：Pap.染色 ×40

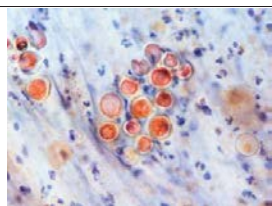


写真2：Pap.染色 ×100

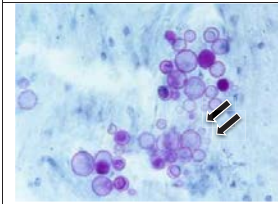


写真3：クロム酸シッフ反応 ×100

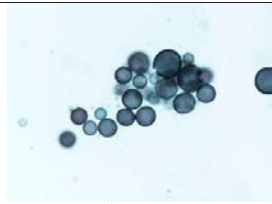


写真4：グロコット染色 ×100

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

糞線虫

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
細胞診アトラス“呼吸器シリーズ”（14）

患者年齢 80歳代 性別 男性 検体種類 喀痰
臨床所見 HTLV-1 陽性 多発性筋炎にてステロイド治療中

【判定】 陰性

【細胞所見】

異型のない扁平上皮細胞とともに虫体を認める（写真1～3）。虫体（写真4矢印）の周囲に肉芽形成と好酸球浸潤を認める（写真4）。虫体の頭部は丸く、尾部は尖っていることが特徴である。

【細胞診断のポイント】

症例は多発性筋炎のステロイド治療の過程で日和見感染として発症した重症糞線虫感染症である。喀痰細胞診でのラブリチス型幼虫が発見されたことが診断の契機となった。本症例は、長崎県五島の出身であること、HTLV-1 陽性であることなどが糞線虫感染の背景因子となっている。幼虫はずんぐりとした形態でラブリチス型幼虫とよばれ、砂時計様の食道（短い食道）が特徴的である。成虫は 2.2～2.5×0.04～0.06mm の大きさで雌しか検出されない。体型はフィラリア型をとり、長円筒型の食道が体の 1/3 前方を占め、尾部は尖っている。

【定義・概念】

成虫は十二指腸および空腸の粘膜および粘膜下層に寄生する。産出された卵は腸管内腔で孵化し、ラブリチス型幼虫を放出し、大部分は糞便中に排出される。土壤中で数日間生存後に感染性のフィラリア型幼虫に発育する。鉤虫と同様に、糞線虫の幼虫は人の皮膚を貫通し、血流を介して肺に移行し、肺毛細血管を突き破って気道を上行、飲み込まれて腸に達し、約2週間で成熟する。

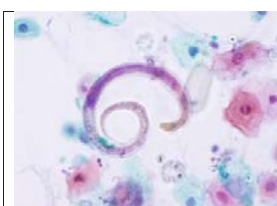


写真1：Pap.染色 ×100



写真2：Pap.染色 ×100

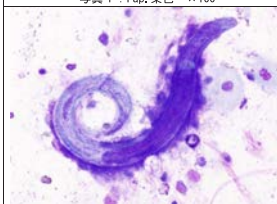


写真3：MGG染色 ×100

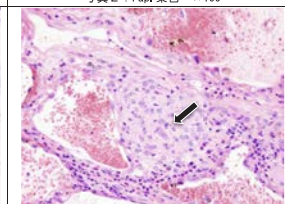


写真4：HE染色 ×40

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

訂正のご連絡

特別講師の都合により、平成30年度愛臨技スキルアップ研修会の特別講師を変更します。

旧 愛知医科大学 救命救急科 梶田 裕加

新 愛知医科大学 救命救急科 阿曾 広昂